

「下立」地名の由来

下立村の起源について、伝えるところによれば、今の黒部市嘉例沢から分立したもので、嘉例沢から下って山から下り立った地ということで、下立（おりたて）という地名になったといわれています。

下立の民話・伝説

下立一区の西に「粕塚」といわれる岩の塊があります。

昔、この辺りを通った一人の僧が酒屋（細越の長者）に立ち寄り酒粕を所望したところ、酒屋の主人は「これは酒粕ではございません。石です」と言って断りました。



粕塚

ところが僧が立ち去った跡を見ると、酒粕はみんな石になっていたそうです。

お光伝説（愛本の粽）

（宇奈月町立別荘発行「うなづき昔ばなし」参照）

下立一区の愛本姫社には、美しい娘がまつられています。

昔、愛本橋のたもとで一軒の茶店を営む平三郎夫婦には、美しく気だてのよい娘がおり、名をお光といいました。

ある晩のこと、トントンと木戸をたたく者がいるので出てみると誰もいません。同じことが三晩も続き、その後お光の姿も見えなくなり捜しましたが、行方はわからずじまいでした。

それから三年の歳月がたったある日、お光が笹の粽を土産にひよっこり帰ってきたので老夫婦は大変喜びました。

翌朝、お光は母に「これから赤子を産みに納戸に行きますので、ぬるま湯を下さい。絶対に来ないで下さい」と言って納戸に一人入っていったのです。母は気が気でなく、がまんできずに障子の隙間から中を見ると、お光が大蛇となって湯につかっているの、母は思わず声を上げてしまいました。



粽（ちまき）

もとの姿にもどったお光は、「私は黒部川に住む大蛇のもとに嫁いだのです。秘密を知られずにいたら、時々お世話しに帰ろうと思いましたが、それも……。」お光は粽の作り方を伝えると、大蛇となつて黒部川の水底に沈んでいきました。愛本姫社の御神体は、湊斎英泉の手によって描かれた版画で、六月に行われる姫社の祭礼に見ることが出来ます。また、お光のかたみとして笹の粽が作られています。

下立の大理石

昭和十一年に完成した国会議事堂に使用された石材は全部国産で、内装材として下立の大理石が選ばれました。色は研磨すると黄灰色と黄褐色を帯び、斑紋は鱗皮状の縞模様が美しく「オニックス・マーブル」といわれ、石灰華の大規模なものです。



国会議事堂の議員階段の手すり

この種類の石は日本では下立以外からは切り出されていませんが、埋蔵量も多くなかったため、現在は採掘されていません。

愛本刎橋（あいもとはねばし）

黒部川扇状地の扇頂部に初めて打渡橋が出来て三十七年後、寛文二年（一六六二）六月、加賀藩五代藩主前田綱紀が刎橋を架けました。



明治11年(1878年)竣工の明治天皇交遊東海御道御遊幸の御手帳写真宮内庁書院部所蔵 複製許可済み

橋脚を使わず、材木を八の字型にはね出すように組み合わせた橋で、岩国の錦帯橋（山口県）・甲斐の猿橋（山梨県）とともに「日本の三奇橋」の一つに数えられていました。



黒部市歴史民俗資料館の愛本刎橋の復元模型（縮尺1/2）

明治二十四年九月、それまでの刎橋が木造アーチ橋（木拱橋）になりました。大正九年、鋼トラス橋が架けられましたが、昭和十四年八月に流失したため、当時の位置から六十五メートル下流に現在の鋼製の愛本橋が架けられました。

地元で使われているのは

○旧下立小学校の玄関「明日を考える」

○宇奈月中学校「光をめざして」
○うなづき友学館「夢」
の三つがあります。



旧下立小学校玄関の大理石（昭和43年、下立小学校PTAが立君より搬出）



愛本橋から左岸、下立を望む

知ろう、語ろう、歴史の里



全龍寺開山堂天井絵（三十六歌仙）



天井絵部分拡大／小野小町

黒部川扇状地の要

黒部市

宇奈月町

おりたて
下立



愛本姫社御神体

愛本姫社



おりたて 下立ものしりマップ



至北陸自動車道 黒部I.C
特別養護老人ホーム

至CO号線
市道 板屋下立線
至電鉄黒部駅

ずんずん様

歯の痛い時は、ずんずん様にお参りすればすぐに願いをかなえて下さり、治ると昔から言い伝えられています。御神体は樟の一種で白タモの木です。

下立神社

明治44年に、村内集落の神社を合祀し下立神社になりました。また、10月に行われる祭礼に、伝統の獅子舞が奉納されます。

福井重成銅像

明治22年、初代下立村長に選ばれ、農業、学校の開設、植林や福祉関係など、住民のために尽くされ、銅像は下立神社に、顕彰碑は粕塚に建てられています。

左義長「おんづろ こんづろ」

毎年1月の第3土曜日に、江戸時代から続く、高さ約6mの左義長「おんづろ こんづろ」が行われます。地元住民や児童らが書き初めや正月飾りを燃やし、今年の無病息災と五穀豊稔(ほうじょう)などを祈るものです。「おんづろ、こんづろ」は、書き初めが燃え、舞い上がる様子を大ツル、小ツルに例え、それがなまったことが由来とされています。

道の駅うなづき

宇奈月麦酒館

黒部の名水と地元の二条麦を使ったモルト100%の宇奈月地ビールが大好評です。ビールと食事が楽しめます。

うなづき友学館

愛本別橋の復元模型が見られます。お光伝説にまつわる愛本姫社の御神体、池田英泉(深斎英泉)作の「花魁」の版画とゴッホの「花魁」との比較など、ユニークな展示もあります。

水神碑

昭和7年、合口用水の水路の壁が抜けて人家に被害を及ぼすことのないようにと願いを込めて建立されました。

大正4年、段丘崖を利用して発電と灌漑に利用しようと建設されました。

旧黒西合口用水
下立発電所跡
旧下立小学校
下立神社
福井重成銅像
下立駅

全龍寺

天文21年(1552)魚津の常泉寺三世松室文寿により開山。曹洞宗の名刹です。天井絵の三十六歌仙は江戸時代に描かれたものです。

鐘楼堂

鐘楼堂は大正2年に建立されました。しかし太平洋戦争のため昭和17年、梵鐘は供出されましたが、昭和23年に寄進され、現在二階より鐘の響きを伝えています。

金刀毘羅社

寛永3年(1626)黒部川本流に打渡橋を架設した際、街道の安全を祈願して建てられたといわれています。

金刀毘羅社
森林浴の森

下立霊水

古道入口にある湧き水で「富山の名水」に選ばれています。

中世の山街道
嘉例沢を経て魚津方面へ行ける古道です。

御滝権現様

社殿のうしろに滝があり、その間にある大杉が御神木で、歯や火伏せの神様です。

下立大理石

オニックス・マーブルという大理石で、国会議事堂建設の際、全国から石が集められ、下立からもこの大理石が選ばれました。

立岩大理石採掘場跡
至嘉例沢森林公園

黒部川

黒部川神社

愛本堰堤が昭和9年の洪水に耐えたのは神の力の賜であるということで、黒部川神社が建てられました。社は右岸に、鳥居は黒部川をはさんで左岸にあります。

至朝日町

愛本姫社

お光伝説はうら面に記載。

愛本姫社

流灌頂

流るる水に白布を浸したり卒塔婆に水をかけて供養したり、宗教的な儀式の場所です。

沈砂池
糠加工場

黒部川神社
愛本橋

愛本別橋跡
ウラジロガシ林
愛本堰堤

ウラジロガシ林

県指定天然記念物。

黒部市役所
宇奈月庁舎

関西電力
新愛本制御所

至宇奈月温泉方面



▲中央の木立が下立神社で、その奥が全龍寺です。